

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

令和2年度 公益社団法人埼玉県臨床検査技師会 臨時会員総会が開催される

令和2年度公益社団法人埼玉県臨床検査技師会臨時会員総会が令和3年3月9日(火)に大宮ソニックシティ市民ホール403号室で開催された。本臨時会員総会の議案審議内容は、令和3年度事業計画案、収支予算案であった。

総会は長澤英一郎事務局次長の進行により始まり、最初に神山清志会長の挨拶が行なわれ、コロナ禍の中、参加された会員の皆様のご協力に感謝の意を表された。

議案審議に入る前に出席者から関口久男氏(埼玉県済生会栗橋病院)が議長に任命され、関口議長より総会役員が指名された。資格審査委員長に神嶋敏子理事、資格審査委員には東部地区から久保田亮氏(埼玉県立大学)、南部地区から急式政志氏(埼玉県立小児医療センター)、西部地区から神戸孝裕氏(関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所)、北部地区から笹野勝年氏(熊谷総合病院)が任命された。また、書記には松内萌氏(越谷市立病院)と鈴木由美子氏(浦和医師会メディカルセンター)が、議事録署名人には、田中亜紀氏(熊谷総合病院)、久保居由紀子氏(JCHO埼玉メディカルセンター)が任命された。

審議前に関口議長は、「本日18時30分現在の出席者数は52名、委任状出席者数1793名、議決権行使書数401名で、合計2,246名となる。この数は第一号から第二号議案を審議するための必要者数である3月1日現在の全会員数3,233名の過半数を超えており、定款第十八条の規定により本総会が成立する。」と宣言された。(議会の出席者確定人数は55名で合計2,249名)

議事審議は神嶋議事運営委員長より議事日程が提案され、それに沿い関口議長の進行により開始された。臨時会員総会の第一号議案である令和3年度事業計画案を神山会長から説明があった。第二号議案である令和3年度収支予算案を松岡優副会長より報告があり、両議案とも質疑応答はなく、議決権行使書401名中、反対0名で、出席者拍手多数によって承認された。

これにて、総会役員、書記が解任となり臨時総会は閉会した。総会は、関口議長による円滑な議事進行と出席していただいた会員の皆様のご協力により滞りなく開催することができた。関口議長、総会役員ならびに会員の皆様に深謝する。

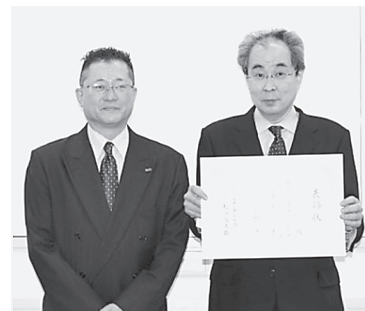


神山会長



関口議長

追記 今回、総会に先立ち令和2年度公衆衛生事業功労者に対する日本公衆衛生協会会長表彰を受賞された家城正和氏（埼玉県立精神医療センター）の表彰が行われた。引き続き、昨年の12月6日に開催された第48回埼玉県医学検査学会での優秀発表賞・学会長特別賞の表彰が久保田亮理事の進行で行なわれ、計9名の方が受賞された。受賞された皆様には謹んでお祝いを申し上げたい。また、総会終了後、第49回埼玉県医学検査学会の飯田眞佐栄学会長より学会の案内があり、今学会の開催形式は、大宮ソニックシティにおける現地開催とWebによるオンデマンド配信を組み合わせ、埼臨技としては初となる「ハイブリット開催」を計画しているとの報告があった。また、会員の皆様の学会参加や演題募集等の協力についてのお願いがあった。



日本公衆衛生協会会長表彰
家城氏（右）

○日本公衆衛生協会会長表彰

家城 正和（埼玉県立精神医療センター）

○優秀発表賞

黒田 智子（獨協医科大学埼玉医療センター）
吉田 貴典（埼玉石心会病院）
岡倉 勇太（株式会社 戸田中央臨床検査研究所）
稲森 悠（彩の国東大宮メディカルセンター）
岩元 玲奈（新座志木中央総合病院）
吉野 淳樹（埼玉県立循環器・呼吸器病センター）

○学会長特別賞

山崎 園子（埼玉県立小児医療センター）
関森なつみ（自治医科大学附属さいたま医療センター）
小島 典江（埼玉県立がんセンター）

（文責：松尾千賀子）



優秀発表賞 受賞者



学会長特別賞 受賞者

第49回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催方式：ハイブリッド（現地開催+Webオンデマンド配信）

開催日：令和3年12月5日（日）

会場：大宮ソニックシティ

テーマ：前進

サブテーマ：～新・時代への発信～



第49回 埼玉県医学検査学会
学術部長 小関 紀之

第49回埼玉県医学検査学会で学術部長を務めさせていただきます、「飲み会を断らない男」こと獨協医科大学埼玉医療センターの小関紀之と申します。

新型コロナウイルスの感染拡大によって私たちの生活は大きく変化しました。従来の常識はコロナ禍においては通用せず、安全性の確保が必須となっています。多くの業界では、リモートワークなど「ニューノーマル」な働き方が普及しつつあります。新・時代を迎えた中で開催する今期の学会は、臨床検査のさらなる前進のために情報と知識を発信してまいります。

学術部では、テーマに沿ったプログラムと抄録作成準備を進めています。一般演題の発表はWebによるオンデマンド配信を予定しています。スライドはPowerPointで作成し、音声を入力する方法で作成していただきます。ハイブリッド（現地開催+Webオンデマンド配信）形式での学会開催に向けて、会員の皆様のご協力をお願いいたします。演題の募集については、以下に大地康文氏（さいたま市立病院）よりご案内させていただきます。

演題の募集について

第49回 埼玉県医学検査学会
学術部 大地 康文

令和3年5月1日より一般演題の募集を開始いたします。今月号では演題申し込み方法についてお知らせいたします。オンデマンド配信にはなりますが演題登録方法はこれまでと変わりませんので、多数のご応募をお待ちしております。

1. 演題申し込み資格

- 1) 発表者は今年度の技師会費を納入した方（以下、会員）に限ります。
- 2) 共同発表者は原則会員とし7名以内とします。
- 3) 非会員の共同発表者がいる場合は学会事務局にご連絡ください。
※なお、学生の発表については上記資格を問いません。

2. 演題・抄録原稿の申し込み方法

1) 会員の方

日本臨床衛生検査技師会総合情報システム（JAMTIS）を用いたWebでの演題・抄録登録をしてください。

※第49回埼玉県医学検査学会ホームページからJAMTISにリンクできます。

※ログイン時に会員番号とパスワードを使用します。

演題・抄録登録(変更)時にJAMTISより「受領メール」が自動送信されます。

受領メールが届かない場合はメールアドレス・登録手順をご確認ください。数日経過しても届かない場合は、お早めに学会事務局へお問い合わせください。

2) 学生の方、コマーシャル演題

演題申込書、抄録原稿ファイルを第49回埼玉県医学検査学会ホームページからダウンロードし、学会事務局へ電子メールで送付してください。「受領メール」は演題・抄録受付後に学会事務局から数日中に返信いたします。

3. 抄録の作成要領

1) 会員の方

JAMTISを用いた入力方式、ファイルアップロード方式のいずれかで作成してください。ファイルアップロード方式で使用するMicrosoft Wordファイルは、学会ホームページからもダウンロードできます。

2) 学生の方、コマーシャル演題

学会ホームページからダウンロードしたファイルにMicrosoft Wordを使用して抄録を作成してください。

3) 一般演題・学生演題の本文は26文字×18行×2段=936文字以内です。

4) 句読点はカンマ「,」、ピリオド「.」を使用してください。

4. 演題・抄録

受付開始日：令和3年5月1日(土)

演題・抄録締切日：令和3年7月15日(木)

※演題・抄録の締切日の延長は、原則として行いません。

5. 発表方式

Web上でのオンデマンド配信となります。(発表スライドの作成方法は後日「埼臨技だより」及び学会ホームページにてお知らせいたします)

※配信期間は令和3年12月5日(日)～令和4年1月10日(月)の予定です。

6. 申し込み演題の採否

1) 採否については実行委員会に一任願います。

2) 採否の結果については、後日電子メールにて通知いたします。

7. 問い合わせ先

第49回 埼玉県医学検査学会 実行委員会事務局

医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院 検査技術科 菊池裕子、吉成一恵

〒362-8588 埼玉県上尾市柏座1-10-10

TEL : 048-773-1111 (代表) Mail : yoshinari@ach.or.jp

タスクシフティング討議会開催

日 時：令和3年2月27日（土）18時00分～

場 所：埼臨技事務所（Web同時開催）

参加人数：会員32名

医師の働き方改革、労働時間短縮については、医師以外の関係職種で可能な限り業務分担が図られるよう検討するとされ、臨床検査技師に対するタスク・シフト/シェアのための法令等の改正が予定され、検体採取同様の既卒者指定研修も行われていく方向である。このタスク・シフト/シェアの実施状況、今後の展開を都道府県技師会で討議し報告するよう日臨技より指示があった。

埼臨技でも開催方法を理事会で検討し今回の開催に至ったが、急な話で生涯教育プログラムへの掲載ができず、会員の皆様にはだよりのみの通知となり、周知が行き届かなかったことをお詫びする。

当日は理事8名が埼臨技事務所に集まり、他の理事、また事前登録のあった一般会員にはWebで参加してもらい32名の参加があった。

神山埼臨技会長の挨拶後、宮島日臨技会長にもWebで参加していただき、ここに至る経緯、タスクシフティングの必要性、臨床検査技師の今後のかかわり方についてご説明をいただいた。

討議は埼臨技理事施設に外来業務、入院業務、救急外来業務についてアンケートを事前に行い、現状どの程度まで行われているか？導入の障害になっていることは何か？について、集計結果を報告した。

外来業務では、ほとんどの施設が外来採血に取り組んでおり、臨床検査技師の業務として定着した感が伺えた。

入院業務では、外来ほど採血が行われておらず、要因として人材不足、勤務時間の変更が難しい等の意見が多く、病棟技師のような配置の必要性も感じた。

救急外来業務に至っては病棟以上に進んでない現状であった。

宮島会長より「与えられたことを行うことも大切だが、今後は積極的に取り入れる、取り入れるためにはどうすればいいのか？」という姿勢に変わっていくことが大切とのご助言をいただいた。

Web参加者からも貴重なご意見をいただき閉会となった。

今回は第1回目で総論的な内容になったが、会を繰り返し、各論的なことも討議していきたいと考える。

（文責：猪浦一人）

研究班研修会報告

テーマ 免疫チェックポイント阻害薬について 「免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象の管理と対策」

主催 血清検査研究班

実施日時：令和3年2月18日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 点数：基礎教科－20点

講師：木村 直紀（ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
ラボソリューション事業部 クリニカルリエゾン部）

参加人数：会員50名

出席した研究班班員：渡邊剛 富田耕平 岡倉勇太 末次遼太 大坂圭司

研修内容・感想など

今回は木村氏より、免疫チェックポイント阻害薬について、免疫チェックポイント阻害薬とは何か、がん化学療法における免疫チェックポイント阻害薬はどのように使用され、どのような副作用があるかについて幅広くお話された。

免疫チェックポイント阻害薬は、2014年以降急激に需要が伸びており、ニボルマブをはじめとしてイピリムマブ、ペンブロリズマブ等、日本でも承認され適応が拡大している。この免疫治療薬は、T細胞の表面に存在するPD-1・PD-L1等のタンパクと結合することで、がん細胞が出したT細胞を抑制する信号をブロックし、がん免疫を助ける働きを持つ。これまでの抗がん剤とは異なる作用であり、自身の免疫力を利用し治療するため、様々ながんへの効果が期待されている。より高い効果の得られる他の化学療法との併用や、免疫チェックポイント阻害薬同士との併用も行われている。

免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象が治療の際に大きな問題となる。免疫機能の活性化に伴い自己免疫疾患様症状が出現することがあり、発症する臓器や時期を予想することは困難である。また、薬物併用療法によって免疫関連有害事象が増加する。発症する臓器によっては不可逆的な症状を呈し、ホルモン補充療法が必要となる。例えば下垂体障害を発症すると、生命維持に不可欠なACTH、コルチゾール等のホルモンに異常をきたし、早急なホルモン補充療法が必要となる。症状のみで発症した臓器を特定することは困難であるため、血中ホルモン値を測定し特定する。免疫関連有害事象の早期治療は予後に関わり、また免疫関連有害事象が見られた症例では予後がよく生存率が上昇するというデータもある。

今回の講習会は、免疫関連有害事象には早期発見・早期治療が必要であり、そのためにはコルチゾール、ACTH等の検査結果を迅速に報告することが肝要であると再確認でき、非常に興味深い内容であった。

（文責：大坂圭司）

テーマ 新型コロナウイルスのPCR検査 ～各施設の対応と検査体制について

主催 微生物検査研究班

実施日時：令和3年2月24日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講師：富井 貴之（株式会社ビー・エム・エル総合研究所）
折原 悠太（埼玉医科大学病院）
毛利 光希（埼玉県立小児医療センター）

参加人数：会員74名

出席した研究班班員：渡辺典之 酒井利育 岸井こずゑ 小棚雅寛 伊波崇之 今井芙美
佐々木真一 毛利光希

研修内容・感想など

本年度最初で最後の研修会で、「新型コロナウイルスのPCR検査～各施設の対応と検査体制

について」をテーマに埼玉県内の3名の臨床検査技師により講演が行われた。

富井氏からは検査センターの対応と検査体制について、1日数千件の検体をどのように対処し報告しているのか興味深く、動画も含めて詳細に解説があった。全自動機器の導入は多数の検体を処理するには重要であると感じた。また、第1波から第3波までの陽性率が示されていて参考になった。

折原氏からは、検体採取から採取容器、使用機器の説明、検査の経緯などについて解説があり、国立感染症研究所が推奨している方法で検査を実施していたことには、強い感銘を受けた。検出感度を上げるには最適な方法であるが、実際検査をするとなると手間や時間、技術を要する。重要な検査法であるので検査結果が臨床と合わない場合など最終手段として準備する必要もある。また、抗原検査との比較データも提示された。

毛利氏からも、自施設の対応と検査体制について説明があり、新たな検査体制を構築するうえで人員の移動や配置など参考になった。また、多くの施設で経験している苦労話などは、共感できる部分も多かった。

昨年の研修会で動向が注目されていた新型コロナウイルスが、緊急事態宣言が出るような大流行を引き起こすとは昨年には全く想像していなかった。検査している施設の多くの臨床検査技師が疲弊していて、今後の状況に不安を抱えていると思う。今後、ワクチン接種により感染が収まるのかどうか、いつまで続くのか全く不明であり、新たな情報も踏まえて来年度も新型コロナウイルス関連の研修会開催を考慮したい。

(文責：渡辺典之)

テーマ 臨床化学の魅力とその測定の先にあるもの

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：令和3年3月13日 17時00分～17時30分

会場：Web開催 点数：専門教科-10点

講師：笹原 美里（上尾中央総合病院）

参加人数：会員53名

出席した研究班班員：永井謙一 北川裕太郎 小林麻里子 羽田幸加 石川純也 巖崎達矢
廣瀬良磨 笹原美里

研修内容・感想など

臨床化学は最も自動化が進んだ分野であり、分析装置さえ止まらなければ無難にこなせる部門だと思われがちである。臨床化学に携わる一人として学生時代から現在に至るまで、心構えの変化や魅力について笹原氏が講演された。

日常業務との関わり方を笹原氏目線で話していただき共感できる部分も多かった。例えば、自動分析装置のトラブルの際、先輩に確認してもらおうと上手くいくという話は誰しも経験することだと思う。

失敗事例を解析し学んだことは、他の技師と情報を共有する努力をしているとのことだった。また臨床との関わり方では、臨床検査技師との考え方には違い・誤差があるということや、患者の治療という同じ目的を持ち、専門職によるチーム医療が必要であるという2点が印象的だった。

病院のような他職種が多い職場では、コミュニケーションをとり「誤差」を縮めることが重要だと感じた。

最後に、①患者背景を考慮し測定値に着目すると深い知識が得られる、②同僚と一緒に思いやりを持ち共に業務を行うとトラブルが少ないこと、③1つ1つの業務に対して責任を持ち、報告値によっては患者の処置が変わってくるということ意識することが重要であるとまとめられた。

今回の講演を拝聴し視野が広がり、改めて魅力のある分野であると感じた。

(文責：小林麻里子)

令和2年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第14回 理事会議事録

日時：令和3年3月11日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 小山 濱本
山口 神嶋 松尾 伊藤 笹野
松寄 石井 神戸 阿部
久保田 長谷川

(監事) 遠藤

Zoomにて出席

(理事) 矢作 塚原 長岡 飯野

(監事) 細谷

欠席：(理事) 長澤 菊池

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は20名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告 (令和3年2月10日～令和3年3月10日)

2月10日(木) 令和2年度第13回理事会：

神山、矢作、松岡、猪浦、小山、濱本、長澤、神嶋、菊池、松尾、伊藤、笹野、塚原、松寄、石井、神戸、阿部、長岡、久保田、長谷川、飯野、細谷

2月16日(火) 日臨技予算委員会：神山

2月16日(火) 検査室管理運営研修会：

伊藤、笹野、菊池、塚原、松寄

2月17日(水) 日臨技臨床検査技師国家試験解析：神山

2月19日(金) 第49回埼玉県医学検査学会第5回実行委員会：神嶋、飯野

2月22日(月) 役員候補者推薦委員会：矢作

2月24日(水) 埼玉県感染症対策課面談：神山

2月25日(木) 人事委員会：神山、矢作、松岡、猪浦、小山、濱本、長澤

2月26日(金) 日臨技定款諸規定委員会：神山

2月26日(金) 青年部研修会：神山、山口、神嶋、神戸、濱本

2月27日(土) 日臨技関甲信支部会議：神山

2月27日(土) タスクシフティング研修会：

神山、猪浦、矢作、松岡、小山、長澤、菊池、塚原

3月5日(金) 生涯教育プログラム行事登録：

長谷川

3月8日(月) 日臨技医学検査学会立候補地視察(高崎)：神山

3月9日(火) 令和2年度臨時会員総会：

神山、矢作、松岡、猪浦、小山、濱本、長澤、山口、神嶋、松尾、伊藤、笹野、塚原、松寄、石井、神戸、阿部、久保田、長谷川、飯野、遠藤、細谷

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 2月22日(月)、役員候補者推薦委員会を開催した。(別紙資料1)

2) 2月24日(水)、埼玉県感染症対策課の午末副課長が、県内における非保険(自費)PCR検査の実態について聴取のために来訪した。本件は、企業が行っているもの、診療所が行っているものと多様であるが、県内の登録衛生検査所については適切な検査体制ができている旨を回答した。ただし、登録衛生検査所が非医療機関から受託するものについては、立ち入り検査時でも開示する義務がないため、詳細は不明と回答した。

3) 2月25日(木)、人事委員会を開催した。

(別紙資料2)

4) 2月27日(土)、タスクシフティング研修会を開催した。

(別紙資料3)

2 総務部

1) 「埼臨技だより」第502号3月15日(月)発行予定。

2) 2月26日(金)、令和2年度青年部研修会を開催した。

3 事業部

1) 2月16日(火)、令和2年度検査室管理運営研修会を開催した。(別紙資料4)

2) 賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会開催日について以下の日程でラフレさいたまに予約した。

令和4年1月8日(土) 櫻ホール

令和5年1月6日(金) 櫻ホール

4 学術部

1) 令和2年2月15日(月)、第70回日本医学検査学会から依頼のあった座長推薦を提出した。

2) 既存埼臨技Zoomライセンス変更及び新規ライセンス取得について契約が終了した。

3) 埼臨技会誌Vol.67 No3 3月15日(月)発刊予定。

5 精度保証部 特になし

6 会計部

1) 令和2年度正会員費2名10,000円、入会金2名分2,000円、合計12,000円の入金があった。

2) 石井印刷へ、埼臨技だより第501号印刷代56,514円を支払った。

3) タスクシフティング業務啓発事業助成金

26,000円の入金があった。

7 精度管理委員会

- 1) 3月2日(火)、令和2年度埼玉県臨床検査精度管理調査報告書を発送した。
- 2) 令和2年度埼玉県臨床検査精度管理調査報告会を令和3年3月25日17時よりWebにて開催する。

8 一都八県会長会議 特になし

9 日臨技関甲信支部 特になし

10 日臨技 特になし

11 第49回埼玉県医学検査学会

- 1) 2月19日、第49回埼玉県医学検査学会第5回実行委員会開催した。(別紙資料5)

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和2年度分)

令和3年3月1日現在

会員数 3,225名[令和元年度会員数3,144名]

(新入会員 232名)

賛助会員 78社[令和元年度 81社]

承認された。

- 2) 令和3年度理事会開催日について

上記について、小山事務局長より定期会員総会の開催予定日と重複したため、令和3年6月の理事会開催日の変更について提案があった。審議の結果、6月3日とすることで承認された。

2 総務部 特になし

3 事業部 特になし

4 学術部

- 1) 研令和2年度優秀論文賞推薦論文について(別紙資料6)

上記について、久保田理事より発言があり、審議の結果、承認された。

第67巻1号(Vol.67 No.1 2020)

分類:原著

テーマ:日常検査中に遭遇したコンタミネーション例 - CRP試薬中の遊離グリセロールによる中性脂肪の偽高値 -

著者:羽田幸加氏

(株式会社LSIメディエンス

川越ラボラトリー)

- 2) 埼臨技Zoomライセンス500名参加可後の運用について

- 1) 生涯教育プログラムにおいて募集人数表記は班長に一任

- 2) 参加希望者にJAMTISから事前登録申請をしてもらう

- 3) 研修会追加時事前登録の[募集制限]は班長に選択してもらう(生涯教育プログラム送付時にメールへ記載)

- 4) 研修会URL・ID・パスワードの伝達方法はJAMTIS一斉メール

- 5) 研修会の募集制限をしない場合埼玉県会

員以外への生涯教育点数付与については確認事項

- 6) アクセス確認会議は原則開催しないが、研究班から希望があれば研究班が日程を確保し自ら開催する。

上記の件について、長岡学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

7 精度管理委員会

- 1) 精度管理解析委員の委嘱について

上記の件について、山口精度管理委員長より発言があり、審議の結果、承認された。

8 第49回埼玉県医学検査学会

- 1) 精学会運営に関する事項等、協賛依頼文書、学会ロゴマークについて(別紙資料7)

上記の件について、神嶋理事より資料説明があり、審議の結果、承認された。

Ⅳ. 議題

1 事務局

- 1) 事務局運営規則の変更について

公益社団法人埼玉県臨床検査技師会 事務所使用申請書を変更したい

(別紙資料8)

上記の件について、小山事務局長より発言があり、審議の結果、承認された。

- 2) 事務員時間給の増額について

上記の件について、小山事務局長より人事委員会での決議事項について説明があり、審議の結果、承認された。

- 3) 名誉会員の推薦について

上記の件について、小山事務局長より発言があり、審議の結果、候補者前会長、津田総一郎氏を次期通常総会に上程することで承認された。

- 4) 令和3・4年度監事について

上記の件について、小山事務局長より役員候補者推薦委員で会の議事概要について説明があり、審議の結果、候補者について次期通常総会に上程することで承認された。

2 総務部 特になし

3 事業部 特になし

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部

- 1) 旅費規程の改定について(別紙資料9)

上記の件について、石井会計部長より発言があり、審議の結果、来年度の予算編成までに旅費規程について再検討することとした。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。



令和3年度埼臨技会員名簿作成についてのお願い

1. 新入職員の会員登録はお済でしょうか？

令和3年5月31日(月)の登録情報をもとに名簿作成いたします。名簿掲載希望の方は期日までに登録をお願いします。

2. 勤務先が変わった方、登録変更はお済でしょうか？

今年度より異動等で勤務先が変わった方、勤務先の変更はお済でしょうか？まだの方は日臨技ホームページの会員のページより勤務先変更を速やかに行うと共に、埼臨技事務所にご連絡ください。

埼臨技への連絡がないと郵便物の配送や各連絡が前施設へ届くこととなり、お互いに迷惑を被ることとなります。皆様のご理解及びご協力をお願いいたします。

3. 令和3年度会員名簿の配布および名簿不掲載のお申し込みについて

埼臨技会員名簿はCD(コンパクトディスク)で作成し、配布は会員の所属する施設および賛助会員に1部、各研究班に2部とし、会員個人には希望される方だけに配布いたします。

個人会員で名簿の配布を希望される方、また会員名簿への不掲載を希望される方につきましては、下記の通りお申し込みいただきますようお願いいたします。なお、以前より不掲載を希望されていた方につきましては、本年度も継続いたしますので連絡は不要です。

また、発行するCDは個人情報保護のためファイルのコピー、印刷は出来ませんのであらかじめご了承ください。

申込期限：令和3年5月31日(月)

メールまたはFAXでお申込み下さい。

件名(標題)を「勤務先変更」、「名簿配布希望」または「不掲載希望」として、会員番号および氏名、勤務先変更の場合は新勤務先を送信して下さい。

連絡先：公益社団法人埼玉県臨床検査技師会事務所

TEL：048-824-4077 FAX：048-824-4095

E-mail：sairingi@sairingi.com



あ と が き

4月になり、最初の緊急事態宣言が発令されて1年が経ちました。昨年のことを思い出すと、私は4月7日から授業を行うことになっていましたので、急遽、オンデマンド資料をパワーポイントで作成しました。当時はWebカメラやマイクが売り切れており、動画で授業をすることができませんでしたが、月日が経つにつれて、Zoom等を用いたリアルタイム講義ができるようになりました。今思うと、ここ1年で大きく仕事方法が変わったなど実感しています。

さて、今年度、新人職員として入職される方は、このコロナ禍で学生生活において苦労された方が多いと思いますが、遠隔講義など「新しい生活様式」への変化に対応されてきた方であると思います。今後、臨床検査技師のタスクシフティングなど仕事面でも変革が多くなると思いますので、ぜひ柔軟に対応して業務に励んでいただければと思います。頑張りましょう。

(久保田 記)

